



子どもの音楽体験を考える 地域円卓会議

子どもに感動的な音楽体験を提供する C→Brass wind orchestra。
その活動を評価し、どうしたら子どもの芸術体験を
継続的に提供できるかを考える

実施報告書

日 時： 2023年12月17日（日）13:30-16:30（受付開始13:00-）
場 所： 沖縄産業支援センター 中ホール（那覇市字小祿1831番地1）
主 催： 一般社団法人C-BRASS ウインドオーケストラ
協 力： 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

【報告】子どもの音楽体験を考える地域円卓会議



- 日 時：2023年12月17日（日）13:30-16:30
- 主 催：一般社団法人C-BRASS ウインドオーケストラ
- 場 所：沖縄産業支援センター 中ホール
- 協 力：公益財団法人みらいファンド沖縄
- 着席者数：10名（論点提供者、司会、記録者含む）
- 参加者数：6名（企業、非営利団体等）
- NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供

木村 義朗 氏

（一般社団法人C-BRASS ウインドオーケストラ専務理事）

伊敷 祐希 氏

（一般社団法人C-BRASS ウインドオーケストラ代表理事）

子どもに感動的な音楽体験を提供するC→Brass wind orchestra。その活動を評価し、どうしたら子どもの芸術体験を継続的に提供できるかを考える

C→Brass wind orchestraは、沖縄の子どもたちのために何か行動を起こさなければ、という思いで設立された吹奏楽団体です。今回の円卓会議では、活動を通して、音楽家から見たコロナ禍における子どもの状況の変化を確認しながら、音楽体験がもたらす子どもたちへの影響を着席者と議論します。そして、芸術体験の意義を地域社会が受け止め、これらの事業が継続的に行われるためのあるべき姿をみんなで考えたいと思います。

センターメンバー



木村 義朗
一般社団法人
C-BRASS
ウインド
オーケストラ
専務理事



伊敷 祐希
一般社団法人
C-BRASS
ウインド
オーケストラ
代表理事



高江洲 奈
沖縄県立総合
教育センター
研究主事



久保田真弘
琉球新報社・
スタジオ
レゾナンス
共同事業体



黒島 有莉
浦添中学校
3年C→BRASS
ユース第1期
メンバー



玉木 見奈
神森中学校
3年C→BRASS
ユース第1期
メンバー



喜多 晴那
北谷中学校
3年C→BRASS
ユース第1期
メンバー



伊佐 尚記
琉球新報社
文化芸能班
記者

子どもの音楽体験を考える 地域円卓会議

2023.12.17(日)

13:30~16:30

④ 沖縄産業支援センター 中ホール

子どもに感動的な
音楽体験を提供する
C→Brass Wind orchestra。
その活動を評価し、
どうしたら、子どもの芸術体験を
継続的に提供できるかを考える



(論点提供)

林
再認識した
志の高さを改めて。
孤独感ある。かっしうされた。
学校の先生によって気づかされた
文えはみずこしてはいいない

伊敷
団体を継続していかねば...
どう社会とつながるかの今エを待た
ながついていかなければ...

喜多
孤立化しない
行政機関は大切な
パートナー
サポーター-けいこう
伝え方
10ヶ年-ジ-伝え方
仲間がいる
学校の地域移行
シミュレーション

主催 (一社) C-BRASS ウィンドオーケストラ 協力 (公財) みらいフィールド沖縄、NPO法人まちなが研究所わくわく

論点提供

一般社団法人C-BRASSウィンド
オーケストラ

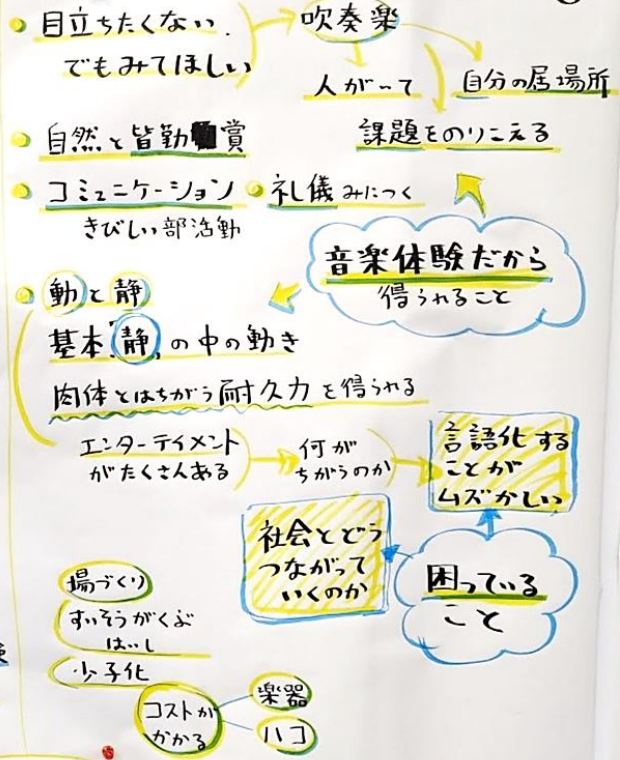
木村義朗 専務理事
伊敷祐希 代表理事

- 2021~任意団体
- 沖縄の文化
- 子どもの教育
- 若手音楽家の活動の場の創出



子どもや社会にとって
様々な体験
ある中で
文化 活動
音楽 体験
大人が関わりなく
縮小しがち

目に見えづらい 成果でるまで時間かかる

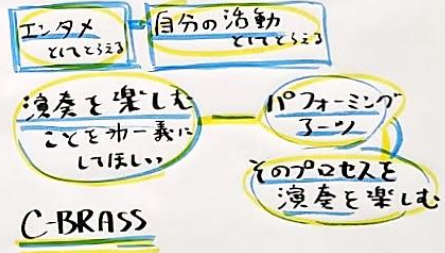


高江洲 奈 さん
3中 埼玉県立総合教育センター

- 学校での活動を地域へわたす
- スポーツ → クラブチームとして楽しむ
- 吹奏楽部 → 団体へ入っていないが、参加人数に入っている
- 部活動改革 → 平日の活動 どうするか
- 専門家からアドバイスも受ける
C-BRASS
- 探求する力 精神的な体力
(音と話すのもたいへん)
- 学校にねらっている楽器(備品)
練習する場 今あるものをいかに使うか
- 3000~5000万円 ← 新しく楽器かうと

久保田 真弘 さん ③
琉球新報社・スタジオレゾナンス共同専任

音楽と商売に特化した、仕事
お金の得て、失ったものがある
仕事としてより、自分の好きなものを
やりたい。
お金にすること 演奏すること



黒島有莉 さん
津波中3年

喜夕晴那 さん
北谷中3年

2週間に1回 → 10月の演奏会
部活とちがって
音楽をメッチャやりたい人が集まっている
エンジョイ勢
ガ子勢
音楽をやる楽しさが明確に、
とって楽しかった。

黒島さん
お1回定期演奏会を見に行きた
オーディションうかった
高いレベル目指している人たちと吹いて
みたかった
少人数 (神森中 18名)
多人数での演奏
他の学校の子たちと話したり

喜夕さん
こちらの小学校で練習
物動 → 親送迎
こうはいかにどう教えてよいかわからなかった
教ったことと、部活へもって帰って伝えた

伊佐尚記 さん
琉球新報社

- 少子化 → バレー・ヒップホップダンスの人口増えている
- 親の目線
いきいき生きて、コミュニケーション
お金の送りかえしやすければ (場所) させてあげたい、子どももやりたい
- チャンネルあると接しやすくなる。(増やせば)
- プロならいではの高指専科
- 同じモチベーションの仲間ができる
- 教育・社会面・地方面にのた方が認知されやすい (芸能面よりも)

サブセッション

⑤

3人3人が
新たな可能性を
ひろげてくれる

音楽を軸とした
コミュニケーションが
沖縄にある

音でまで
時間がかかる

あぶない楽器
フゴットなど

内向的な子

個人でうまくなれる

個人競技であり
団体競技でもある

学校のように知らない
中で集まっている
どうホールドするか

コースをもって有効な場へ

沖縄
音が明るい

仕事にならなから
やめる

聖文・楽器がある
学校ある

自分の学校で家
以外の場所が
あることで
学べることある

30人必要

少子化

ユース

健全に継続
したい

クラブチーム化
地域の習いごと化

受講料(月謝 3000円)

チケット販売

演奏会参加費

10のパートの
専任家
講師

それぞれの
専門性
が上がっている

3時間/回

2週に1回

もっかん→中で
きんかん 夏死にかけた
外で

場所

体育館
ホールで
練習したい

各パート

低・中・高音別に

資源の
再分配

備品登録
されている

利用状況
1/3くらい
使われていない
楽器・場所の
活用は、
可能性がある

わざわざ
社会の資源化
商工会が支援

吹奏楽

小学校
合同チーム
OK

平日:それぞれ練習
週末:合同練習

楽器

新しくかわ
なくても

修理

再流通

受益者
負担
だけ
いけるのか

価値を社会が
どう受けとめる
のか

参加する
大会のレベル
が変わってきている

楽器の話
無限大

楽しんでい
すがたみて
親として、うれしい

サポータークラブ

ファン 支える人

チケット
割引
メリット

学校以外の
社会包摂のキカイ

エンタメ(芸能)

商品化
する価値ある

子どもの成長
社会貢献

⑥

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- C-brass wind orchestra の活動を知らせることが、子どもたちの音楽教育の充実を図り、奏者の活躍の場を確保し、そして新たな地域づくりの拠点ともなりうることを意識し、広報とネットワーク作りにも力を注ぐべき、もしくは助力を頼めるパートナーを探そう
- C-brass wind orchestra のような子どもへの体験活動の担い手にとって行政（学校）は施設設備や楽器という多くの資源を保有している重要な連携先である。部活動の地域移行という時流も観察しながら、今後こういった立ち位置で活動していけるのかということ、積極的にシミュレーションしていくことが必要

■参加者によるサブセッション

子どもに感動的な音楽体験を提供する C→Brass wind orchestra。

その活動を評価し、どうしたら子どもの芸術体験を継続的に提供できるかを考える

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

- ・ 子どもたちがどう音楽にかかわれるのか？
社会（親？）に音楽をやることのメリットを伝える
→楽器さえあればコミュニケーションがとれる
（問うまでもなく音楽体験は必要でしょ…）
☆機会を増やす
（新聞にも活躍してもらおう）
- ・ 演る側／聴く側としての音楽体験
- ・ 「聴く側」を増やすか？
- ・ いっそ垣根を取ってみんな「演って」みる流れに？
- ・ プロ／アマの垣根はそこまで必要？
でも素晴らしい技術をもつ音楽家は評価されてほしい

②

- ・ 学校にTPが10台あるが3台しか使えない
→知られてない
- ・ 指導者（先生）によって全て変わってしまう
- ・ 交流のハブにもなるし、ニーズはある
☆アンサンブル（ハーモニー）の可能性
（新たなコミュニケーション）
- ・ どうしたら継続的にできるか？
- ・ お金
- ・ 本人がやりたい気持ち大事
- ・ C→Brass がハブになって人や資源（お金だけでなく）をマッチングする
- ・ 音楽を軸としたコミュニケーションが沖縄にはある。

③

- ・ 「やってたことは間違いじゃない」確認できた。が、どうやって継続していけるのか。
（「教育面」ありだな）
- ・ 沖縄は「音が明るい」「リズム感がとても良い」
- ・ 情報にうとい（エクセル使えない…）
- ・ コザ高で続けられそう（部活で）
- ・ 小学校がブラスバンドできていない（那覇市はとくにヤバイ）予算がつかない
- ・ 音楽の先生になりたい
- ・ 楽器をはじめたきっかけは、友人に（小学校で）さそわれ部活をはじめた
- ・ 学校に行きにくい（行けなかった）子が「ユースに通うならちゃんと学校に行くと親と約束して学校に行けるようになった。
- ・ 地域移行は、文化はまだすすんでない
- ・ ユースの活動より、やはり部活を優先してほしい。
- ・ 「目指すバンド（団体）がない」からやる子も減ってきた。だから CBRASS はじめた。
- ・ ユースの礼ギなど、びっくりした（ふだんの部活はだいぶゆるい）

④

一万人の第九みんなで体験しよう

スポーツ 勝ち／負け よく目にする

吹奏楽 コンクール←先生

「強豪校に行きたい」⇔かっとう

- ・もっと増えるといい
- ・もっと身近だといい

譜面のおもしろさ

人間的な成熟度 C→Brass ユース

てだこホール（小ホール）→もっと大きなホールでやりたい！将来も音楽をやりたい

「まざりたい」と思った

他の子も C→Brass に来たらそう思う!!と思う

C→Brass（大人数）ユースでの演奏→専門性

→他校生との連携

→コミュニケーション力

音楽的なエクセレンスに触れる

⇒「音楽をしててよかったなと思う瞬間がみんなにあったらいいな」

（居場所が広がる）

自分の→C→Brass→学校 小学校の時から

父・トランペット

クラシックもきいてた

語学（英語／かんこく語）

⑤

・ 大人が介在しないと縮小していく危機感…
→伝統芸能も。クラシックは効果が見えづらい。吹奏楽は音が出るまで時間がかかる。

人数も減っている。（理想は30名以上）

・ 県内のファゴット奏者が減っている。

・ 下手同士が集まるのが大事？

→常にできない自分を客観的にみる。同じところで成長していける。

・ プロセスが楽しい？

→人と一緒に合わせていくことが、楽しくもあり苦しくもある。

・ 個人競技でもあり、団体競技でもある。

・ それぞれに任されている役割に代替ができない。／やりがい

・ 普通の子もたちの様子を知らない、色んな生活をまとった子たちが集まってくる難しさを感じる。

→外部から必要だとしたら、何？

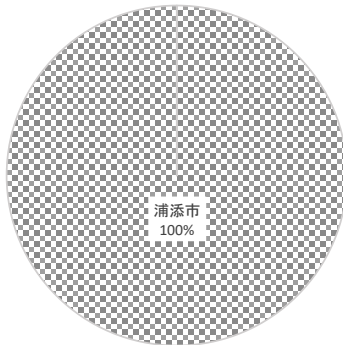
：知恵を借りたい。もっと多様な体験を子どもたちに渡せるはず。

子どもの音楽体験を考える地域円卓会議 参加者アンケート集計

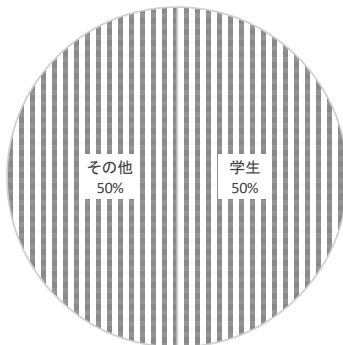
◆概要

- ・日時：2023年12月17日（日）13:30-16:30
- ・場所：沖縄産業支援センター 中ホール
- ・着席者：10名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：6名（企業、非営利団体等）
(アンケート回収2名、回収率33%)

1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.5（5点中）

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足
1名	1名	0名	0名	0名

5. 満足度の理由

(5. 満足)

- ・ 音楽に必要なこと、課題とかを知れたし言葉にして話せて良かった。

(4. 概ね満足)

- ・ C→BRASS の活動について、もっと頑張りたいので、何か youth 活動に協力できるか考える事ができた。Support していきたいと思っています。

(写真) 会場の様子



● 子どもたちがどう音楽にかかわれるのか?
 社会(親?)に音楽をやることの
 → 楽器さえあれば「ネットを伝える
 (質問までもなく音楽体験は必要では...)

★ 機会を増やす
 (新聞にも活躍してもらう)

● 演者側/聴く側 とその音楽体験
 「聴く側を増やすか?」
 ・ いえ、垣根を取ってみんな「演って」みる
 流れに?
 ・ プロ/アマの垣根はそんなに必要?
 でも、素晴らしい技術をもつ音楽家は
 評価されてほしい。

「つたてては即座に『じゃあ』」確認された。か:
 どうして継続して「やるか」。(教育面)ありたね)
 ・ 沖根は「音が明るい」「文は感、バビロニア」
 ・ 情報にうと。(エクセル使った...)
 ・ コジ高で、紙付けられ(部活で)
 ・ 小学校が「ラスバンド」できていい(部活声はとくにいい)
 予算がつかない
 ・ 音楽の先生に頼った
 ・ 楽器を始めたきっかけは、友人に(小学校で)とわか
 部活をはじめた。

・ 学校に行きにくい(行けなかった)子供、互一スに
 通うからやめる学校に行くと親と約束して
 学校に行けなくなる。15分。
 ・ 地域移行は、文化はまだすすんでない。
 ・ コースの活動も、やはり部活を優先してほしい。
 ・ 「目指すバンド(団体)がない」からやめる子も減ってきた。
 だからBRASSはいい。
 ・ 互一スな感じ。バビロニア(部活も部活は
 だいたいいい)

他の
 学校の
 ネット
 体験
 スポーツ
 から/エフ
 よく見ると
 音楽の
 垣根
 取ると
 音楽の
 垣根
 取ると
 音楽の
 垣根
 取ると

吹奏楽
 コンクール
 「演奏校は
 行きにくい」
 ↓
 壁面のおかし
 人間の
 成長(→brass
 コス
 (デニホル(11歳) → もっと大き
 「まじりた」という
 ホルビツト!!
 将来も音楽をまじりた

「音楽をして
 ぶかた(た)と
 思いついた」
 かんた
 あ、た
 いいた」
 (場所)
 学校 ← (→brass
 小学校の時から

★ アンサーブル(11歳-)の可能性
 (新しいコミュニケーション)
 学校にTPが10台ある3台の
 ↓
 知らなくて...
 ・ 指導者によって変わって
 (先生) 合
 ・ 交流の11ブにもなるし、ニースの
 どのくらい、継続的にできるか?
 (1) お金
 (2) 本人が「やりたい」気持ち大事
 (3) Brassが「11ブ」になって
 人材資源をマッチングする。
 (金たかる)
 ・ 音楽を軸としたコミュニケーション
 が沖根にはある。

父: ランポート
 リンクもいいた
 語学(英語/ドイツ語)

①

・大人が介在しないと縮小していき
危機状態...

↳ 伝統も、クラシックは効果が見えづらい。吹奏楽は、音が出るまで時間がかかる。
人数も減っている。
(理想は30名以上。)

・県内のフットボール者が減っている。

・下手同士の集まりが大事?
↳ 常にできない自分を客観的にみる。
同じところで成長している。

②

・プロセスが楽しい?
↳ 人と一緒に合わせていくことだし、
楽しもあり、苦しみもある。

・個人から支えてもあり、
団体から支えてもある。

・それゆえに任せられている役割に
代替がきかない。 / やりがい。

・普通の子と私たちの様子を知りたい。
他人は生活をもと、たががら
が果ててくる責任を感じる。

↳ 外部から必要だとしたら、何?
: 知恵を借りたい。もと多様な
仲間の子と私たちの渡りこ